

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No.

90

2026 年 10 月発行

「ともに育ちあう」ということ

インクルーシブ教育が言われて久しいですが、最近、「ともに育ちあう」という声を聞かなくなったように感じます。わが子にあった教育を希望する保護者が増え、個々の支援を重視する教員が多くなったのでしょうか。一人一人の成長に合わせて対応することや個々の子どもにあった学習をすることは大切なことですが、個の能力にとらわれ、人との関係性の中での育ちを見失っているように感じる場合があります。「原学級保障」を謳っていた学校も抽出授業を行うようになり、大阪の「原学級保障」という言葉を知らない若い教員も多いと思います。そんな時代だからこそ、今再び、「ともに育ちあう」ことを考えてみようと思います。

大阪市教育委員会のHPには、『地域で「共に学び・共に育ち・共に生きる」ことを基本とした教育・保育の推進に努めており、地域の小学校・中学校・義務教育学校で学ぶことを基本としています。』とあります。『障がいのあるお子さんの就学先を決める際には、本人・保護者の意向を最大限尊重』とも書かれています。また、大阪府下には、知的障害生徒自立支援コースや共生推進教室など、障害生徒のためのクラスが準備されている高校があります。他府県に比べると、ともに育つという実践が行われているように思います。

現在、小中学校には通常学級、通常学級＋通級による指導、特別支援学級などがあります。どこに在籍するかを悩む保護者が多くいますが、それは、個々のお子さんの気持ちや保護者の思いで決めればよいことと、私は思います。ただ、どの選択をしても、その子どもが普通学級でクラスの一員として位置づけられていることが大切だと思っています。普通学級担任の先生が「うちのクラスの子」として対応をしてくだされば、その思いは子どもたちに伝わります。支援担当との連携もできていくと思います。担任の先生が、この子は支援学級の子だからとか、この子がいるとクラス運営が大変だと思ってしまうと、その空気は周囲に感染していくと思います。『問題が起こる⇒皆で考える⇒結論はでなくても気づきがうま

れる』という過程で、いろんな人がいて助け合ったり譲り合ったりすることを学ぶことができます。通常クラスでは勉強についていけないから、特別支援教室で勉強したいという話はよく聞きますが、支援学級に在籍をしていない子は、皆、勉強についていけており、しっかり授業を受けれているのでしょうか？



勉強についていけないから辛いとかかわいそうとかいう話も聞きますが、誰が辛くて誰がかわいそうなのでしょう。本人でしょうか？ 周囲の大人でしょうか？

個人的な話になりますが、私の娘は知的にも身体的にも大きな障害をもっています。勉強はできないどころか、言葉での会話も難しいので、先生の説明も分かっていないと思います。そんな娘ですが、小中学校（高校もですが）、普通学級でずっと過ごしました。当初、私は、別の教室で娘にあう勉強をしてもらった方がよいのではないかと迷っていました。友だちが大好きなので、友だちの中に入れてやりたい思いと、娘の能力的な発達を望む思いとが入り混じっていました。しかしながら、娘は、授業内容はわからなくても、友だちと一緒にいて、同じ（ような）ことをしたがり、教室から出たいと言いませんでした。もしかしたら、教室から出ていいと教えていたら、そのほうが楽なら出たいと思ったかもしれません。でも、教室に居続けることが苦痛ではなかったことは事実です。中学生の時、定期テストの最中に騒いで教室から連れ出される体験をした娘は、次の日からは、テスト中は怒っていても静かにしていたようです。私は、勉強がわからないのに教室にいることが苦痛なのではというのは、大人の考えだと気づかされました。これは私の娘の場合の、単なる一事例です。でも、勉強についていくことを強いられなければ、自身が評価をされる不安がなければ、教室に居続けることはそんなに苦痛ではないのかもしれないと気づかされました。最初から大人が決めてしまうのではなく、子ども本人から、教室でのこの教科の勉強がわからなくて辛いから、別教室で勉強がしたいと訴えがあれば、一緒に考えて良い方法をとればよいと思います。

ともに育ちあうということは、お互いが「ほとんど大丈夫」という関係の中で育ちあっていくのだと教えてくれたのは、娘が6年生の時の娘の同級生でした。娘とともに育ちあってきた友だちでした。中学生になると、特別扱いをしない関係の中で育ちあっていく子どもたちを目の当たりにしました。子どもも教員も保護者も、ともに育ちあってきたと思います。私は、こうあるべきという考え方はしたくないと思っていますが、ともに育ちあう教育なくしてともに暮らす地域社会はないと思います。皆さん、今一度、「ともに育ちあう」ということについて考えてみませんか。

（地域生活サポートネットほうぶ 向井裕子）

放課後等デイサービス「楽童ほうぷ」報告

暑くて長い夏休みが終わり、2学期が始まり、そして、運動会シーズンになりました。日の入りが早くなり、大阪はようやく秋の気配を感じるようになってきました。

1 か月余りの夏休み、いろいろな活動に取り組みました。子どもたちに、命の大切さを学んでほしい、いろいろな人がいる社会に気づいて考えてほしいと思い、平和学習や世界の国を知る活動をしました。戦争と平和を語ったところで、子どもたちに伝わるだろうか、遠い国で起きている戦争のことを子どもたちが真剣に考えてくれるだろうか、検討を重ねて、1回目は、子どもたちに「平和ってどんな時？」を考えてもらうことにしました。2回目は、いじめについて考えてもらうところから戦争について考えてもらいました。世界の国を知る活動は、保護者の方をお願いをして、自国ジャマイカについてお話をしてもらい、陽気な音楽にのせてみんなでダンスをしました。後日、それぞれが調べたい国を選んで文化や料理について調べ、クッキングやおやつ作りをしました。コングクス、チーズハットク、春巻き、アドボ、パブロバ、聞いたこともない料理も作りました。平和のことやともに暮らす社会のことが、子どもたちの心にどのくらい残っていくのかわかりません。それでも、私たちは悩み考え、積み上げていくしかないと思っています。

夏休みといえば、宿題、そして、水遊び(?)。勉強はたくさんしました。食中毒予防のワークもしました。暑中見舞い作りや絵日記作成から作文の基本も学びました。算数の勉強はお買い物ごっこをしました。クッキングを想定して肉や野菜を買う回と、お部屋作りを想定して家電や家具を買う回の2回、行いました。子どもたちは楽しそうに取り組んでくれました。遊びもたくさんやりました。ほうぷのピンクのテントの下でビニルプールの水遊び、サーキットをしたり、転がしドッチをしたり、身体ほぐしをしたりしてしっかり身体を動かしました。旭区事業所連絡会(児童)のスポーツ交流会にも参加して楽しみました。

大学の先生たちとほうぷの好きな場所探しのワークショップをしたり、こども ILP で「住」をテーマの取り組みをしたりしました。スタッフが何かを教えたり機会を提供したりするだけでなく、子ども同士で自由に遊ぶ時間はとても大事な時間です。基地作り、ダンボール工作、お店ごっこやまちづくり等、いろんなことをして遊びました。



外国の文化や料理について
体験学習や調べ学習



からだほぐし



クッキング



絵日記(文章の書き方)

大学の先生たちとワークショップ

ー児童の豊かな育ちを支える放課後デイサービスの施設環境に関する研究ー

7月29日(水) 30日(木) 午後

参加者：子ども各 10 名 大学の先生方：各 5 名

放課後等デイサービスが、こどもも保護者も安心して利用でき、落ち着いて過ごせる施設環境について研究しておられる大学の先生方からのご依頼があり、上記の施設環境に関する研究に協力することにしました。子どもたちは、各々、カメラを持ってほうぶの好きな場所を撮ったり、グループに分かれて好きな場所や苦手な場所とその理由等、活発に意見を出し合ったりしました。



こども ILP テーマ「住まい」

8月5日(水) 12日(水) 2回プログラム 14:00~15:00

参加者：子ども各 10 名

7月下旬にほうぶの好きなところ探しをした子どもたち。今度は、自宅のお気に入りの場所や自分の大事なものを発表しあい、自分の大事なものを自分で飾ったり管理したりできるように置き場所を考えてみる ILP をしました。自宅のお気に入りの場所を紹介しあう中で、お互いのことを知る和やかな時間も持てました。また、自分の物が自分で管理できないという声をよく保護者から聞くので、お家に自分のコーナーを作って自分の物が管理できたらと考えました。ILP 後、自宅で、子どもが自分の物を置く場所を少し意識してもらっていたらと思います。



スポーツ交流会 ー旭区事業所連絡会企画ー

8月21日(金) 14:00~16:00 会場：旭区民センター

参加者：子ども9名 ボランティア：1名

旭区自立支援協議会の事業所連絡会(児童)が開催したスポーツ交流会に参加しました。暑いので、市バスで会場の旭区民センターまで行きました。区内のいろいろな放デイの事業所が参加しており、交流ができました。皆でボッチャやスリーアイズで盛り上がり、最後のダンスもしっかりエンジョイしてきました。



●法人内の活動報告●

- 7月17日（金） ほうぶよるカフェ（ほうぶ）参加生徒17名
7月29日（水） 放デイの施設研究グループワーク（大学の先生方と）
虐待防止委員会（ほうぶ）
7月30日（木） 放デイの施設研究グループワーク（大学の先生方と）
8月21日（金） ほうぶよるカフェ（ほうぶ）参加生徒2名
9月18日（金） ほうぶよるカフェ（ほうぶ）参加生徒12名



●地域活動等報告●

- 7月14日（火） ブックスタート（ほうぶ）参加者1組
7月15日（水） 旭区地域自立支援協議会本会（旭区役所）
7月18日（土） 就学進学なんでも相談会（旭区役所）
7月28日（火） 認知症家族会相談会（さくら苑地域交流センター）
8月17日（月） 旭区子育て支援キッズネット定例会（旭区民センター）
8月20日（木） 清水地域活動協議会福祉部会（ほうぶ）
8月21日（金） 旭区事業所連絡会(児童)スポーツ交流会（旭区民センター）
8月22日（土） 旭区自立支援協議会こども部会 子育て応援セミナー（旭区役所）
8月25日（火） 認知症家族会相談会（さくら苑地域交流センター）
9月 4日（金） 旭区子育て支援「あさひの輪」定例会（旭区社協）
9月 8日（火） ブックスタート（ほうぶ）参加者なし
9月13日（日） おやこ ひろば ほうぶ（ほうぶ）参加者なし
9月14日（月） 地域自立支援協議会こども部会定例会（旭区役所）
9月16日（水） 清水地域子育て支援ネットワーク会議定例会（清水小学校）
旭区地域自立支援協議会本会（旭区役所）
9月17日（木） 人権推進委員会定例会（旭区役所）

9月の4連休は、梅田に買い物に行ったり、普段できないところを掃除したり、あれこれ考えて楽しみにしていたのですが、初日の朝にぎっくり腰に。連休最終日の午後からようやく普通に歩けるようになり、連休明けから普通に仕事をしています。トホホの休日でした。休みなさいと身体に言われたのでしょね。

気温が下がってきました。皆さんも、ぎっくり腰をされないよう、風邪をひかないよう、気をつけてお過ごしください(む)

